



我が家の防災・災害用伝言板

◆災害用伝言ダイヤルの利用◆

災害用伝言ダイヤルは、地震、噴火などの災害の発生により、被災地への通信が増加し、つながりにくい状況になった場合に提供が開始される声の伝言板です。災害は、いつどこで遭遇するかわかりません。そんなとき、離れ離れになった家族や親戚・知人との連絡方法の一つとして有効で、簡単に利用できるのです。使用方法を覚えておきましょう。

(1)使用方法

テレビ・電話・Webでサービスの開始が報道されたら、「171」をダイヤルし、音声ガイダンスに従って、伝言の録音や再生を行ってください。

◆録音(伝言を登録)

171-1(3)-電話番号-1 ⇒ 伝言を録音-9

◆再生(伝言を聞く)

171-2(4)-電話番号-1 ⇒ 伝言を聞く-9

(電話番号は市外局番から、携帯電話番号も可能。)

(3)と(4)は4桁の暗証番号を利用のとき使用)

伝言の録音が可能な電話番号：被災地(概ね都道府県単位)にある固定電話及び携帯電話、PHS・IP電話

伝言録音時間：1伝言あたり30秒以内

伝言保存期間：災害用伝言ダイヤル(171)の運用期間終了まで

伝言蓄積数：電話番号あたり1~20伝言(提供時に知らされる)

(2)携帯電話各社の災害用伝言板



Docomo：災害用伝言板、災害用音声お届けサービス

Au：災害用伝言板サービス

Softbank：災害用伝言板、災害用音声お届けサービス

(3)体験利用について

災害時以外にも、災害用伝言ダイヤル(171)を体験できるように「体験利用日」が設定されています。いざというときに慌てず安否情報を確認できるよう、是非、家族・親戚・友人間で体験しましょう。

【体験利用日】

- 毎月1日及び15日 00:00~24:00
- 正月三が日(1月1日 00:00~1月3日 24:00)
- 防災週間(8月30日 9:00~9月5日 17:00)
- 防災とボランティア週間(1月15日 9:00~1月21日 17:00)

【提供条件】

- 伝言録音時間：30秒
- 伝言保存期間：体験利用期間終了まで
- 伝言蓄積数：20伝言



(4)家族で予め災害時の連絡方法を決めておきましょう

(5)近くより遠くの親戚宅や友人宅

被災地の電話は多くの人々が一斉に利用するため、非常に混雑し繋がりにくい状況になります。こんな時、被災地より遠く離れた親戚宅や友人宅を連絡先に決めておくと、連絡が取れる可能性が高まります。

防災便りは、富士が丘ポータルサイトにも掲載しています。
(<http://sanda-fujioka.com/> [富士が丘] で検索)

◆通信欄

・今月は、一昨年に実施されたアンケート結果で認知度の低かった「災害用伝言ダイヤル」の特集です。8月末からの防災週間は絶好の体験利用のチャンスですので、是非一度、家族で体験しましょう。

・日ごろからの「備え(準備や知りえた知識)」が、突然やってくる災害への助けとなります。

◆つぶやき◆ 22年前の阪神・淡路大震災の折、大阪市内の会社に連絡しようと何度も電話をかけたが繋がりませんでした。その時、滋賀県にある支所に電話をかけて、内線電話で伝言を頼んだ覚えがあります。まさしく、近くより遠い連絡先が実践できた出来事だったと感じています。(m.y)

